



チームけせんの和 だより

発行:陸前高田の在宅療養を支える会（チームけせんの和）

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字太田512-2
(岩手県立高田病院内)

2024
vol.41
12月号

「チームけせんの和」によせて



きかわだ歯科クリニック

歯科衛生士会

気仙支部支部長 佐々木 裕紀重



いつも皆様にはお世話になっております。けせんの和の歯科衛生士会の役員を務めさせて頂いております佐々木です。きかわだ歯科クリニックに勤務しております。

改めまして私自身のことをお話ししたいと思います。昭和63年に歯科衛生士専門学校を卒業し、盛岡の歯科医院に勤務いたしました。平成16年からきかわだ歯科クリニックに勤務して今年で20年となりました。(年がバレますね…) 月日の流れは早いものです。

私が専門学校で勉強した頃は在宅医療や訪問歯科などの高齢者歯科に関する授業は少なかったと思います。私の記憶が確かならば…。その頃、岩手県では子供のむし歯有病者率が全国トップレベル。県内でも気仙地区がトップレベルで子供の歯をどのようにして守っていくかが課題でした。今でもむし歯有病者率が高いのは変わらないのですが、減少傾向にあります。

学校とは違い、いざ仕事をしてみると高齢者の方が様々な悩みを抱えて来院されます。糖尿病や高血圧などの生活習慣病との関わりが注目され、医科歯科連携が以前にも増して重要となっております。日々の診療においても、口の中だけでなく全身にも目を向けなければと感じているところです。

私の数少ない訪問歯科診療の中で、今でも思い出すことがあります。ご家族から左側の口から食べ物が出るとの訴えがありました。上下総入れ歯で咬み合わせ、適合など問題はありませんでした。口唇閉鎖筋の問題と判断したところ、やはり左側から息が漏れてきて頬を膨らませることが出来ませんでした。口腔機能を回復させる運動を指導し、何日か実施して頂いたところ、口からこぼれなくなったとのこと。口の中だけでなく他にも目を向けることを教えて頂いた、大変貴重な経験だったと思います。

私自身、在宅療養、訪問歯科に関しては経験不足なこともあり、勉強していく必要性を感じております。幸いにも、「けせんの和」の研修会は様々な講師の方々に来て頂けて、貴重なお話を伺うことができます。また、その後の親睦会に参加すると、講演では無かった裏話まで伺えるという特典がある時も！

これからも様々な職種の方と「顔の見える関係」を築き、活動しお手伝い出来ればと考えております。今後ともよろしくお願いいたします



テーマ：「北上市における在宅医療、連携の実際」

日 時： 令和6年8月23日（金）

場 所： 陸前高田市コミュニティホール 参加者：81名

講 師： 機能強化型在宅療養支援診療所 医療法人わけん ホームケアクリニックえん

院 長 千葉 恭一 氏

医療ソーシャルワーカー 櫻井 茂 氏

緩和ケア認定看護師 高橋 美保 氏

「行政・医師会との関りについて」

院長 千葉 恭一 氏

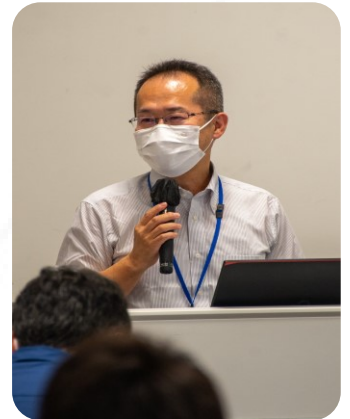
今回のテーマから興味があった行政との関りとしては、地域包括ケア体制の強化のために、在宅医療連携拠点「在宅きたかみ」を北上済生会病院内に設置している事と地域医療支援病院として機能している事を学びました。

医師会との関りとしては、医師会がコーディネート役となり在宅医の取り組みやスキルアップ研修会等実施し急性期病院と在宅・施設がお互いを補完しあえる関係づくりをして在宅療養を知っていただく取り組みをしているという事でした。

また、家族介護のない独居患者さんの終末期から看取りの時期を過ごす条件を設定しており職域を超えた関りが大切であること、独居死は決して不幸とは限らないことも話されました。

先生は42歳で在宅医療の道に進む決心をされたそうです。

「えん」の思いのテーマ「笑顔」を終始感じられる講演でした。



「在宅医療における連携 診療所MSWの役割」

医療ソーシャルワーカー 櫻井 茂 氏

櫻井氏の自己紹介と北上市の人口91,220人（R6.7月）高齢化率28.4%（R5）、北上市の医療施設や介護保険内外の施設数の報告がありました。

機能強化型在宅療養支援診療所での医療ソーシャルワーカーとしての業務と、多職種間との連携、地域においては在宅医療についての啓発活動、地域活動の継続等の活動。

櫻井氏が関わっている地域活動を紹介いたします。

* ケアカフェ・きたかみ：医療者、介護者、福祉者の集まりで顔の見える関係作りと日頃のケアの相談場所の提供

* 注文のやんべな料理店：「まちがえる料理店」から始まり、認知症の方々が活躍できる場の活動。

* シン・ケアラボ：多職種連携事例検討会

* つむぎつなぐ保健室：「多機能事業所Ito」と「ホームケアクリニックえん」と共同で行い、地域にお住まいの方々の暮らしや健康、医療、介護など様々な相談に応じている。

この研修を顧みて、医療に限らず地域においても、幅広く活動されていることに深く感心させられました。また多職種間の連携の大切さを改めて考えさせられました。



「訪問診療同行看護師の役割と各事業所との連携について」

緩和ケア認定看護師 高橋 美保 氏

今回の講演は、事例を交えながらご講義いただきました。

事例の紹介では、家に帰れると思っていた方が、「帰れるなら仕事の引継ぎをしたい」、「買い物に出たい」、「孫の小中学の入学まで頑張りたい」等希望に満ちていく姿が紹介されました。在宅での治療継続はその人の生きる力にも繋がると感じました。

看護師が医師と共に訪問することで、状態に合わせた治療が継続でき、在宅での生活に安心感が生まれます。

今回の講演でチームで関わることの大切さ、在宅で関わる全ての方との連携、情報共有が大切であると改めて感じました。

在宅医療における看護師の役割は、患者さんが自分らしく生活し、より豊かな人生を送れるように多職種と連携し、医療的なケアを提供しながら患者・家族を支えることであると学びました。



活 動 報 告 「劇団ばば☆」公演

☆今年度の公演☆

令和6年10月20日(日) 高田町和野会館★「塩を減らそう!」 参加人数約30名

令和6年11月 8日(金) 広田町コミュニティセンター★「転倒知らずは寝たきり知らず!」
参加人数約20名

令和6年12月10日(火) 気仙町今泉コミュニティセンター★「転倒知らずは寝たきり知らず!」
参加人数約36名

※気仙町コミュニティセンターでの公演は次回の会報に掲載します。

★ 介護老人保健施設松原苑

管理栄養課 主任 今野 誠菜さん

劇団ばば☆に仲間入りしたばかりですが、もうすぐ4回目の公演を控えています。退勤後の練習は大変でしたが、地域包括ケアを支える様々な機関・団体で働く方々と知り合い、団長の熱血指導を受けながら成長できた気がします! 寸劇後の質問コーナーでは、雑誌やテレビからの健康情報についての質問も多く、皆さんのアンテナの高さに驚かされました。どんな質問や意見にもお答えできるよう、さらに精進します。ありがとうございました。



★ 「塩を減らそう」孫のゆめちゃん役で出演

ことな

千葉 琴凧さん 7歳 小学1年生

お家でお母さんと一緒に読み合わせの練習をしました。本番では、セリフをおちついてはっきり話すことができてよかったです。演じる人もお客さんも知らない人ばかりで学習発表会よりも緊張したけれど、とっても楽しかったです。最後にみんなにほめてもらえて、うれしかったです。



★ 「転倒知らずは寝たきり知らず」孫のゆめちゃん役で出演

蒲生 まつりさん 7歳 小学1年生

セリフを覚えるのが難しかったけど、本番はとても楽しかったです。特におじいちゃんと体操をするのがおもしろかったです。まだセリフを覚えているので(演じてから1か月以上経過しています。) またいつでも出られますよ(^.^)。



「ほっぺが落ちる」
団員特製鍋焼き♡と
おごご♡いつも
ごちそうさます。

「塩を減らそう!」「転倒知らずは寝たきり知らず!」キャスト/スタッフご紹介

- | | |
|------------|---|
| ■ 出 演 | 一本木大貴、佐藤隆、千葉三和子、佐々木康裕、熊谷敬子、千葉琴凧、蒲生まつり、小林里美、村上房子、松田真理子、今野誠菜、中野由香 |
| ■ ナレーター | 中野由香、西條一恵 |
| ■ 撮 影 | 大友重隆 |
| ■ 黒子・音響・照明 | 中野信子、熊谷質子、蒲生富美枝 |
| ■ 事務局 | 蒲生紋子、熊谷質子、蒲生富美枝、松田真理子、村上房子 |

希望ヶ丘病院認知症疾患医療センター

当院は、外来は精神科、入院は精神科病棟・精神科療養病棟・内科療養病棟を有し、平成20年9月1日の開設以来、地域の精神保健医療を担ってまいりました。また、当院は令和3年から、岩手県より認知症疾患医療センターを受託しております。保健医療・介護機関等と連携を図りながら、認知症疾患に関する鑑別診断、周辺症状と身体合併症に対する治療、専門医療相談等を実施しております。この7月より精神科に新たに土方真吾医師をお迎えしました。当院は井上医師、土方医師、岩手医大の応援医師とともに地域の精神保健医療の中核となり、連携する支援者の皆様とともに地域に貢献できる医療機関を目指してまいります。精神症状や認知症の症状によるお困りごとは当院医療福祉相談課にご相談ください。



お問い合わせ 電話：0192-53-1019 FAX：0192-55-6360

相談支援事業所さんさん

相談支援事業所さんさんは、障がいや難病のある人やそのご家族、発達が気になるお子さんの家族が、気軽に相談ができる場所です。一番多い相談は、施設利用やヘルパー、ふれあい教室など、福祉のサービスを利用する際に必要になる計画作成の依頼です。障害年金や障害者手帳の取得についてもご相談ください。なお、相談や支援にかかる費用は、無料です。秘密は固く守ります。陸前高田市より、障がいの理解促進事業を受託しておりますので、障がいのある方への支援や理解についての出前講座などもできます。年に3回、朝日のあたる家でほっとカフェを開催しています。お気軽に声をかけてください。

お問い合わせ 電話：0192-47-4612



編集後記

今年もあっという間に年の瀬の時期を迎えました。会員の皆さまにはお忙しい中、研修会をはじめとする沢山の活動にご参加いただき感謝しています。来年も元気いっぱい「チームけせんの和」を盛り上げていきましょう！皆さま良いお年をお迎えください。

